

令和6年度なは市民協働大学



なはセン通信

Vol.101

2025年
1月号

目次

なは市民協働大学 修了式	1
イベント・講座	2
なは市民活動支援事業	3
なはセンについて	4

問い合わせ

なは市民活動支援センター
098-861-5024
C-KATU005@city.naha.lg.jp

令和6年度なは市民協働大学 修了式

令和6年11月16日(土)に、令和6年度なは市民協働大学「成果発表会及び修了式」を開催しました。学長である知念覚市長をはじめ、協働によるまちづく推進協議会の與儀会長や各回の講師にもご参加いただきました。

受講生は、各々の探求テーマ「在住外国人×地域の協働」と「学校×地域の協働」の集大成として7分間のポスタープレゼンに挑み、これまでグループで調べてきたことや実際に地域に向いて気づいたことを様々な工夫を凝らして発表しました。「在住外国人×地域の協働」をテーマとしたグループ1は『在住外国人の住居に関わる問題』に着目し、ゴミの出し方などを楽しく学べるカードゲームの提案をしました。同じテーマを扱

ったグループ2は、「多文化共生とこどもたち」をテーマに外国にルーツを持つ子どもたちのためのイラストや漫画を活用した学校生活におけるマニュアルの提案を行いました。

もう一つのテーマである「学校と地域の協働」には、4つのグループが取り組みました。グループ3は、「地域活性化色々な世代の居場所」をテーマに多世代が交流できる空間づくりをしている現場の取材をまとめ発表しました。グループ4は、「違いを知ろう！地域連携室」を探求テーマに、那覇市内の5つの地域の地域連携室に取材調査を行い、『ちなじゅんちゅ(コディネーター)育成講座』を提案し、地域の人と地域の場所を繋ぐ人材の重要性について触れました。グループ5は、「こんなまち協(小学校区まちづくり協議会)

があつたらいいなあ」をテーマに、『地域の繋がり方』についてや自分たちにとつての理想のまち協のあり方についてまとめました。グループ6は、「誰もが気軽に集まれる居場所づくり」をテーマに、子どもを軸とすることで多世代の交流が生まれること、地域で孤立しない見守り体制の重要性について発表しました。

講評では、「活動現場に行つて語り合つた様子が伝わつてきた」「新しい視点をもらった」などコメントがありました。また、上原晴美さんと知念亮太さんからの修了生代表挨拶では、『多世代間の協働』で社会を築く未来を描きながら、これからも市民として、自分にできる一つ一つを日々見つめ、挑戦の一步を起こしてまいります」と、力強いメッセージと共に修了式が締めくくられました。



修了生代表挨拶



イベント・講座

◇持続可能な地域拠点を考える地域円卓会議

11月17日(日)に、沖縄大学にて、『味噌でつなげる多世代型地域拠点「よりみん」その活用・地域参画、そして事業の継続について考える』をテーマに円卓会議を開催しました。

「協同労働」や「地域の居場所」に興味のある方が集まり、新しい働き方の提案とともにビジネスとしての目標をどう置くか(廃棄おからの減少、生味噌の価値)や、目指す居場所(子どもの体験保障、高齢者の生きがい、自治会や学校への波及など)の「価値」を社会に伝えることの大事さが話し合われました。

実際に、よりみんで作られたおから味噌床の野菜漬けやお味噌汁が振舞われ、参加者皆で舌鼓を打ちつつ、よりみんについて考え、話し合うことができました。

論点提供者の城間えり子さんからは「今後の展開と方向性を確認でき、新たなつながりを得ることもできとてもよかったです」とありました。

次年度はSIB(ソーシャルインパクトボンド)で出資を募る予定です。

よりみんさんのチャレンジに今後も引き続き注目です。



◇ボランティア受け入れ講座

11月11日、20日の2回に渡り、なは市民活動支援センターにおいて、特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく代表理事・事務局長の宮道喜一氏を講師に迎え、ボランティア受け入れ講座を開催しました。

最初の講義では、ボランティアが力を発揮するために受け入れ側が抑えておくべきポイントとして、団体の使命に共感し、自発的に参加しているボランティアに対して情報が共有されていることや、ボランティアがアイデアや意見を言う場が確保されていることが大切であることを学びました。

またボランティア側も、ボランティア活動にはさまざまな立場や思いの人たちがさまざまな役割で関わることから、相手を尊重し、お互いに連携して効果が上がるように活動すること、自分自身が無理をせず、活動のルールや約束、個人情報などの秘密を守ることが大切であることが伝えられました。

2回目となる20日には、実際にボランティアを募集するためのチラシ作製に挑みました。参加者は、どんな組織からどんな人へ、どんな時に何を伝えるのか、どんな手段で伝えるのかを再確認した後、ポスター・チラシを作成する際の紙面サイズの検討や紙面のレイアウトなど、チラシ作りのコツを学びました。

学んだことを意識しながらポスター・チラシの作製を行い、キャンバに挑戦するなど思いのポスター・チラシを作製した参加者からは「言葉にするのは難しいが、やってみると『想い』が形になって、やってよかったと思った。」「ボランティアに対しての敬意と感謝の気持ちを忘れずに、企画運営して

いきたいと思います。」などの感想が寄せられました。
成果品の一部はなは市民活動支援センターのフェイスブック、インスタグラムで公開しております。ぜひご覧ください。



◇ボランティアマッチング 第2弾

11月27日(水)に「令和6年度ボランティアまつちんぐ会第2弾」をなは市民活動支援センターで開催しました。この講座は、ボランティアを希望する市民とボランティアを求める団体の交流を目的とした講座です。

事前申し込みのあった10代から50代の参加者の13名による自己紹介から始まり、ボランティアをしてみようと思った動機や、活動を希望する分野などが紹介された後、参加団体から各団体の活動内容の説明が行われました。その後、ワールドカフェ形式で交流が行われ、参加者からは活動で気を付けることや団体の雰囲気、自分が参加する場合具体的に何をするのかなど、活動に向けての具体的な質問がありました。また、参加団体からもボランティア志

望の動機、やってみたい事など、ボランティアの思いに熱心に耳を傾ける様子もみられました。

今回のマッチング会では、5団体、13名の参加者のうち2団体、8人のマッチングが成立し、実際にボランティア活動を始めることになりました。

交流会の後参加者からは、「視野が広がった。参加してよかった」「色々なボランティアについて知ることができた」「具体的なお話しが聞けて安心して活動できそうです」などの感想が寄せられました。

★参加団体★

1. 労働者協同組合ワーカーズコップ・センター事業団 沖縄事業所
2. NPO法人チャリティーサンタ沖縄支部
3. 那覇市地域活動支援センターグッドモーニング
4. なは市民協議会
5. 那覇市地域包括支援センター城岳



市長とゆんたくタイム 自治会長会連合会×那覇市全部局編 開催！

11月22日(金)、那覇市長、教育長、上下水道事業管理者をはじめとする那覇市の全部局長19名が一堂に会し、那覇市の自治会を代表する皆様24名と「市長とゆんたくタイム」を開催しました。

まず始めのグループセッションでは、各部署長が携わっている政策や現在直面している課題、各自治会の紹介と地域が抱える課題・悩みについて共有されました。

日頃、自治会の方々と会う機会が少ない部局長もいる中、まちづくり協働推進課職員によるユニークな部局長紹介で、堅い印象の職員のイメージが一変！参加の皆様と打ち解けやすくなったのではないかと思います。

次に、今回の本題である防災について意見交換をするため、消防局の屋良消防監より、地域防災計画の紹介と自主防災組織結成のススメがありました。また、まちづくり協働推進課職員より、関東大震災での焼失をほぼ免れた神田佐久間町の町内会の紹介を行い、防災において、自治会が日頃から取り組んでいる『顔の見える関係性の構築』が有事の際にも重要な役目を担うことを確認しました。

その後、今回参加いただいた自治会で「共助・近助の精神」に繋がっていると感じる取り組みや今後必要なことについて、グループで話し合い、意見交換を行いました。この共有を通じて、参加者全体で自治会の重要性を再認識することができ、那覇市の各部署および自治会の相互の協力関係について、改めて意識を向

けることができました。

また、本事業終了後に実施したアンケートでは、多くの参加者に「満足」と回答いただき、「それぞれの自治会の取り組みや課題を知る機会が良かった」「市長や各部長と直接話せたのは初めてで大変良かった」「自治会の活動や課題を理解する視点が得られた」などの感想が寄せられました。また、自治会の高齢化や子ども会活動の必要性など、防災以外の具体的な課題についても共有できたことで、それぞれの地域の現状に即した対応の重要性についても再認識されました。

本事業を通じて、参加者が相互の理解を深め、自治会の重要性を再認識し、地域防災活動を含む「共助・近助の精神」を基盤に、地域社会をより良くしていくための意識が高まったかと思えます。このような機会を今後も継続し、那覇市と自治会が互いに協力し合う体制をさらに強化していくことを目指したいと思います。



ボランティア情報♪

ボランティアマッチングコーナー

ボランティアを探している団体を
調べてみよう！

活動分野で絞り込むことができるよ



◆那覇市人材データバンク (ボランティアマッチング)

ボランティアしたい個人・ボランティアをしたい団体とボランティアを求める団体とのマッチングを行い地域社会の課題解決につなげます！



ボランティアをしたい個人、ボランティアをしたい団体、ボランティアを求める団体は那覇市人材データバンクへご登録をお願いします。

詳しくはこちらをご覧ください



講座・イベント

社会とボランティア

～ 様々なボランティア活動を知ろう ～

2025. 1.22 水 18:30-20:30

場所 なは市民協働プラザ2階 会議室1

定員 20名

那覇市社会福祉協議会の職員を講師に招き、様々な事例からボランティアをするにあたっての知識や心構えを楽しく学びます！
Web申し込みはコチラから→



開催中止

次回開催は… 1/11
毎月第2土曜日開催 11:00~15:00

(場所：なは市民協働プラザ1Fピロティー)

なは市民活動支援センターについて



◆施設利用料金 ※1時間当たりの料金 ※オンライン機材貸出可

	定員	面積	料金	冷房
会議室①	84人	約200㎡	1,300円	400円
会議室②③	80人	約200㎡	1300円	400円
会議室③	30人	約100㎡	650円	200円
会議室④	8人	約40㎡	200円	100円
会議室⑤	12人	約30㎡	200円	100円
会議室⑥	12人	約30㎡	200円	100円
会議室⑦	5人	約30㎡	200円	100円
会議室⑧	20人	約45㎡	250円	100円
研修室①	16人	約30㎡	200円	100円
研修室②	16人	約30㎡	200円	100円

◆駐車場 について・・・

なは市民協働プラザ地下駐車場（駐車台数：39台）
メカルパーキング（駐車台数：70台）
※なは市民活動支援センターをご利用の場合、駐車料金は減免の対象となります（例：2時間100円、3時間200円）

◆開館時間、休館日

月・火・木・金	9：00-21：00
水・土・日	9：00-17：00
休館日	年末年始・慰霊の日

◆めかる学習ステーション

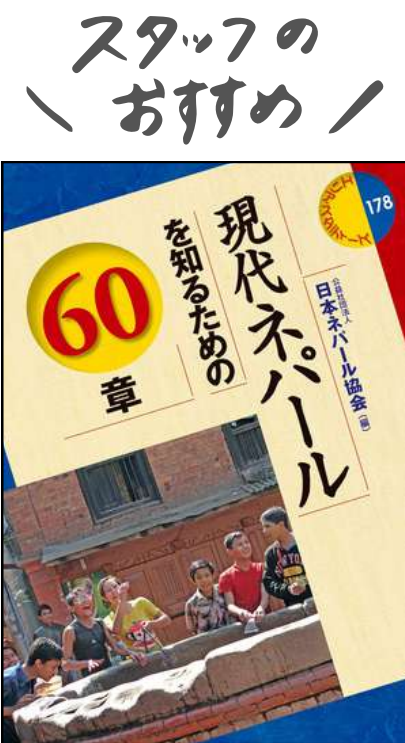
開館時間中、なは市民活動支援センター 2 階を学生・社会人向けの自習スペースとして開放しています！
それぞれの学習ペースに合わせてご活用ください。

貸し出し中！ なはセンお薦め図書

現代ネパールを知るための 60 章

公益社団法人
日本ネパール協会（編）

近年、増加傾向にある県内のネパール人口。沖縄県内にも約6000人がおり、那覇市にはそのうちの4000人弱が在留しています。（2024年時点）
ネパールという国は一体どのような国なのか、歴史・文化、宗教をはじめ、教育・経済・防災等について、研究者や国際NGO関係者、JICA駐在職員が多角的な視点から執筆したレポートが一冊にまとまっています。
ネパールにルーツを持つ人が増えていく那覇市で、私たち《受け入れ側》が読んでおきたい、教科書的存在としてピッタリな1冊です。



◆市民活動よろず相談

那覇市における市民活動に関する相談サービスです。
なお、相談希望の場合は原則予約制となっております。ご予約は、QRコードよりお願いいたします。

～相談日時～
月・水・土
10：00～17：00
金
14：00～20：00



明けましておめでとうございます
今年もどうぞよろしくお願いいたします

2025年もなはセン通信では、なは市民活動支援センターのできごとをはじめ那覇市内の市民活動に関する情報をお届けします。

